

2019年10月3日

各 位

大阪信用金庫
理事長 高井 嘉津義

定例調査：第181回 景気動向調査（7～9月期）

- ☆景況連続悪化・・・売上DI、収益DI マイナス圏へ
- ☆来てほしい、来てくれない・・・「採用する」0.8ポイント上昇
- ☆背に腹はかえられぬ設備導入・・・製造業「実施中・予定あり」21.9%
- ☆問題点「売上の停滞減少」急浮上・・・「売上停滞減少」4.3ポイント上昇

●景況連続悪化・・・売上DI、収益DI マイナス圏へ

総合では、売上DI -1.7（前回比△2.5ポイント）、収益DI -5.2（前回比△3.4ポイント）となり、売上DI、収益DIともに大きく下落し、2017年9月期以来のマイナス圏となりました。売上DIは、製造業で前回比△8.8ポイントと急降下し、不動産業でも△4.3ポイントと大きく下落しています。10-12月期は、総合で売上DIが0.1ポイント、収益DIが1.5ポイントとさらに下落すると予想しています。米中貿易摩擦による直接・間接的な影響や10月からの消費税率引上げが、売上DI・収益DI悪化の要因と思われ、景気の先行きへの懸念が一層強まっています。

●来てほしい、来てくれない・・・「採用する」0.8ポイント上昇

来年度の採用について、「採用する」は27.8%（昨年比+0.8ポイント）となりました。採用する企業の内、「昨年より増員する」は8.3%（昨年比+0.8ポイント）で、採用に積極的な企業が増加しています。特にサービス業で人手不足が深刻化し、増員予定が増加しています。また、従業員数が31～50人の企業では29.1%（昨年比+14.7ポイント）となり倍増しています。

●背に腹はかえられぬ設備導入・・・製造業「実施中・予定あり」21.9%

設備投資は、総合では「実施中」8.4%（前回比+1.1ポイント）、「予定あり」9.9%（前回比△1.5ポイント）、合計18.3%となり、前回からマイナス0.4ポイントとなりましたが、堅調に推移しています。特に製造業では「実施中」11.6%（前回比+0.7ポイント）、「予定あり」10.3%（前回比△2.8ポイント）合計21.9%となり、「実施中」が上昇しています。

売上の増加や生産効率を上げるための設備投資だけでなく、人手不足解消のために設備投資を実施せざるを得ない企業が多いと思われる。

●問題点「売上の停滞減少」急浮上・・・「売上停滞減少」4.3ポイント上昇

経営上の問題点は、総合では「仕入単価の上昇」が44.4%、「売上の停滞減少」が44.2%、「人手不足」が41.5%となりました。売上DIが3期連続下落し、「売上受注の停滞減少」が大きな問題点として浮上しています。消費税率引上げ前の駆け込み需要も少なく、景気の先行きに不透明感が漂っています。また、サービス業では「人手不足」が52.6%と前回比8.5ポイント急上昇し、さらに深刻さを増しています。

調査時点：2019年9月上旬

対象期間：2019年7～9月（実績） 2019年10～12月期（見通し）

対象企業：当金庫お取引先1,763社（大阪府内、尼崎市）

回答企業数：1,481社（回答率84.0%）

調査方法：調査票郵送および聞き取り調査

本調査に関するお問い合わせは下記までお願いします

株式会社だいしん総合研究所（担当：平山）

TEL：(06)6775-6590 FAX：(06)6772-1630

E-mail：souken@osaka-shinkin.co.jp URL：http://www.osaka-shinkin.co.jp